

9 月定例所長会見における横村所長挨拶内容

- 所長の横村でございます。
- 福島第一原子力発電所の事故から 2 年 6 ヶ月となりますが、汚染水の対応なども含め、今もなお、福島県の皆さま、新潟県の皆さま、そして広く社会の皆さまに、大変なご心配とご迷惑をおかけしておりますことを、あらためて心よりお詫び申し上げます。
- 本日、私からは 3 点お話しさせていただきます。
- まずは、当発電所の安全対策に関する主な取り組み状況についてです。
フィルタベント設備については、現在、1，5，6，7 号機で基礎工事並びに、基礎に付帯する壁の工事などを継続して実施しているところです。

また、コンクリートポンプ車 3 台と高所放水車 2 台を、10 月中旬を目途に配備する予定としております。

これらの車両により、原子炉建屋の破損等により、本設の注水ラインや消防車による使用済燃料プールの冷却ができなくなった場合でも、原子炉建屋の外部から使用済燃料プールへ直接注水することが可能となります。

これにより、緊急時における使用済燃料プールへの注水・冷却や、敷地周辺への放射性物質拡散の抑制機能等のさらなる強化が図れるものと考えております。
- この他に、現在進めております安全対策に関連する各種資機材を保管するための資機材倉庫について、一昨日より本格工事を開始いたしました。倉庫については海拔約 35m 以上の高台に、分散配置することとしており、基準地震動相当の揺れに対して倉庫が損傷した場合でも、内部の資機材の

出し入れが可能な設計としております。設置工事は年内を目途に進めてまいります。

引き続き着実に工事を進め、発電所の安全性、信頼性の向上に努めてまいります。

○ 次に、WANOによるピアレビューについてです。

当発電所では、今月 17 日から 25 日までの約 1 週間、世界原子力発電事業者協会（WANO）によるピアレビューを受ける予定としております。

WANOは、チェルノブイル事故を契機に 1989 年 5 月に設立された原子力発電事業者の国際組織で、原子力事業者同士の相互支援、情報交換、良好事例の導入を通じて、協働してパフォーマンスを評価、改善し、世界中の原子力発電所の安全性と信頼性を最高レベルに高めていくことを目的としています。当発電所におけるWANOによるピアレビューは、昨年 6 月に続き 4 回目となります。

今回のピアレビューにおいては、福島第一原子力発電所事故を受け、原子力発電所の停止が長期間に及んでいるため、安全性確保の観点から、現在の設備保全の状況や品質管理の体制などについて確認いただく予定です。

このたびのレビューを、さらなる発電所の改善につなげる機会として捉え、さらなる改善すべき点がないか検証し、今後役に立ててまいります。

○ 最後に、「地域の皆さまへの説明会」の実施結果についてです。

先月 26 日に柏崎市にて、27 日には刈羽村にて、地域の皆さまへの説明会を開催し、両日で約 190 名と多くの皆さまにご参加いただきました。

今回の説明会においては、「柏崎刈羽原子力発電所 6，7 号機における安全対策と新規規制基準への適合性」、「フィルタベント設備の概要」、「福島

第一原子力発電所の汚染水の状況」について説明をさせていただきました。

ご参加いただいた皆さまからは、適合申請と再稼動との関連、フィルタベントの性能、住民避難など、様々なご意見やご質問をいただきました。具体的には、「フィルタベントでも希ガスは出るので避難を自治体任せにしないでほしい」、「住民避難について、誰も被ばくせずに避難できるのか」、「福島事故を収束させてこそ安全である」、「タイムリーな情報発信と言っていたが、福島第一の汚染水問題は早く公表していない」、「柏崎刈羽が新規規制基準に適合するのか、早急に適合申請をするべき」などの声をいただいたところです。

説明会でお聞きした貴重な声も踏まえながら取り組みを進めるとともに、今後とも、地域の皆さまのご理解がさらに深まるように丁寧にご説明を続け、地域の皆さまにご安心いただけるように努めてまいります。

○ 本日、私からは以上です。

以 上